VOL.14

麻につるる

亜麻（リネン）の花　Photo by CBLFTA

日本麻紡績協会

ASABO/Japan Bast Fiber Association

本誌表題について

「麻につるる」は、ことわざ「麻につるる蓬（よもぎ）」に由来しています。ことわざの意味は、「曲がって生えやすい蓬でも、真っ直ぐに生える麻の中で育てば、曲がることなく自ずと伸びる」ということです。

転じて、善良な人々に交われば、殊更に教育をしなくとも自然に善良な人に育つ、という意味に用いられます。

日本麻紡績協会におきましても、麻に携わることを生業（なりわい）としている我々は、このビジネスに打ち込んでいる、それだけで真っ直ぐなビジネス人生を描いて、成長していくことができる、そういう想いと願いを込めて、当協会誌のタイトルといたしました。

目　次

目次 ・・・ 1

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶（日本麻紡績協会会長） ・・・ 2

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶（経済産業省製造産業局生活製品課長） ・・・ 3

業界レポート 2024 年～2025 年リネン(亜麻)事情 ・・・ 6

業界レポート 2024 年～2025 年ラミー(苧麻)事情 ・・・ 7

亜麻・苧麻統計表 ・・・ 8

会員企業紹介及び近況報告（株式会社テザック） ・・・ 9

会員企業紹介及び近況報告（グロリア株式会社） ・・・ 10

会員企業紹介及び近況報告（株式会社穂高商事） ・・・ 11

新会員企業紹介（有限会社亜麻公社） ・・・ 12

新会員企業紹介（一般財団法人 岐阜県蚕糸協会） ・・・ 13

新会員企業紹介（三共修整有限会社） ・・・ 14

国際会議（第一回東京国際ヘンプカンファレンス）報告 ・・・ 15

国際会議（Global Linen Textile Forum）報告 ・・・ 16

欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp）からの最新情報 ・・・ 18

海外情報　PREMIERE VISION 2026 春夏向展示会(2/11-13) ・・・ 21

新刊書紹介 ・・・ 23

日本麻紡績協会の現況 ・・・ 24

会員企業一覧 ・・・ 25

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

日本麻紡績協会
会長　根本 圭司

新年明けましておめでとうございます。

日本麻紡績協会 会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素は当協会の運営に格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年来フランスではファストファッション規制法案が審議されております。
これは、ファッション業界だけで地球の温室効果ガス排出量の最大８％を占めると推計されている中、ファストファッションブランドは消費者の購入意欲に応えるべく最新のトレンドにあった安価な服を提供し、我々はあまり着用していない服を捨てながら驚異的な速さで新しい洋服を購入しているためであり、環境への負荷や労働者の権利侵害といった深刻な問題が内在すると指摘されています。

他方、縄文時代から日本人は麻（ヘンプ〔大麻〕、ラミー〔苧麻〕）を手で紡ぎ、生活文化に取り入れてまいりました。また、リネン（亜麻）は紀元前より、古代エジプトのナイル川流域や、黒海とカスピ海に挟まれたコーカサス地域で３万８千年前より用いられ、ヨーロッパの文化に引き継がれ、永い歴史を築いています。

この様に我々が扱う麻（ラミー、リネン、ヘンプ）は、豊かな大地に育まれた自然の恵みを手間暇をかけて物づくりし、地球環境と調和しつつ、今日まで広く用いられてまいりました。そして、その特異な繊維特性を持つ麻は、他素材との複合等により季節性や用途においてもより拡がりをみせています。

今日我々に求められているのは「持続可能で循環型の生産、消費、ビジネスモデルへの移行」であり衣類が環境にやさしく、リユース、リサイクル可能なエコデザイン要件を満たすことと承知しております。

麻がサスティナブル素材との認知が進み、また日本の繊維・ファッション業界も低価格思考から脱却の時を迎えようとしている今日、我々は麻を用いてファッションの価値である「人を元気にする、楽しくする力」を持った付加価値商品の創造に協働すべきではないかと思います。

以上を踏まえ、私自身も微力ではございますが、今後とも当協会の発展のため、鋭意努力してまいる所存でございますので、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

日本麻紡績協会年賀交歓会ご挨拶

経済産業省製造産業局生活製品課長
髙木 重孝 様

令和７年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶び申し上げます。

令和６年は、ポストコロナの社会・経済が活気を取り戻しつつある一方で、人手不足やそれに伴う生産能力の低下、後継者や十分な人手が確保できず、廃業に追い込まれる企業が見られるとともに、大手繊維メーカーが繊維事業の撤退を発表するなど、繊維産業にとって依然として厳しい年となりました。

他方で、IT や DX を活用した生産性の向上、下請取引の適正化や海外を含めた新たな販路の開拓などにより、収益が改善した繊維企業もありました。

また、本年１月に発災した能登半島地震に際し、毛布、テントシート、衣類などの支援物資の供給にご協力いただきましたことに改めて敬意を表すとともに、皆様のご支援が、被災地の復興に向けた大きな力となっていることを心より感謝いたします。

我が国の繊維産業は、これまで厳しい国際競争で培われてきた技術力、繊細さや表現力により、私達の日々の暮らしの質をより良くし、生活文化の発展に不断に貢献することができる産業です。日本の繊維企業の宝である職人の卓越した技術、芸術性、創造性は、世界からも高く評価され、革新的な製品を生み出す力として期待されています。令和７年は、繊維・アパレル業界にとって、新たな挑戦の年になると考えています。我が国の繊維産業が創造する素晴らしい価値を更に高め、次世代に引き継いでいくため、業界が一丸となって解決すべき課題に果敢に立ち向かえるように、経済産業省としても、6 つの繊維産業政策を産学官の力を結集して推進してまいります。

第一に、サステナビリティへの対応です。人手不足への対応を進める一方で、企業の経営力向上も重要な課題です。欧州等の一部のアパレル企業では、既に先行的に人権や環境に配慮した製品作りを打ち出しており、国際社会においてサステナビリティ確保に向けた法整備や対応等が進展する中、今後、我が国の繊維企業がグローバルに産業競争力を維持・強化していくためには、企業による環境配慮や人権尊重に向けた取組が不可欠となっています。経済産業省では、国内外の繊維製品における環境配慮設計の動向を踏まえ、繊維製品の環境配慮設計項目および評価基準について整理した「繊維製品の環境配慮設計ガイドライン」を令和６年３月に策定しました。今後も、欧州等との制度調和を見据え、引き続き環境配慮設計の JIS（国内規格）および ISO（国際規格）化に取り組んでいきます。また、令和６年６月には、2040 年度における資源循環システムの構築や適量生産・適量消費の達成に向け、衣料品の回収量の増加に向けた制度整備、資源循環システム構築に資する技術基盤の整備、環境配慮設計の推進、情報開示

の推進・グリーンウォッシュ対策の４つの項目に関して、2030 年をターゲットイヤーとして KPI を定めた「繊維製品における資源循環ロードマップ」を策定しました。加えて、繊維・アパレル企業が主体的に情報開示を行えるよう、環境配慮に関する情報開示の考え方や期待される環境配慮項目について示した「繊維・アパレル産業における環境配慮情報開示ガイドライン第１版」も併せて策定しました。今後は、ロードマップに沿って、これらのガイドライン等を活用いただき、我が国の繊維企業の国際競争力の維持・強化につながるよう皆様と一緒に取組を進めてまいります。

第二に、取引適正化・労働環境の更なる整備です。引き続き、ロシアによるウクライナ侵攻等によるエネルギーや原材料価格の高騰等により、製造コストは上昇しているにも関わらず、価格転嫁が十分にできていない繊維企業も多く存在しています。今後、国内の繊維企業における人手確保のためにも賃上げは重要であり、繊維産業のサプライチェーンの各工程における賃上げの原資確保のためにも、適正な取引、適正な利潤の確保が重要です。そのためにも、繊維産業における人権配慮・労働環境の適正化に向け、「繊維産業における企業行動ガイドライン」と「責任ある企業行動実施宣言」、「パートナーシップ構築宣言」の徹底に、業界と連携し取り組んでまいります。皆様におかれても、自社のサプライチェーンに問題がないか、今一度点検していただき、サプライチェーン全体での法令遵守、適正な価格転嫁の取組が一層進むことを期待します。この他にも、エネルギー価格高騰への対応については、重点支援地方交付金の推奨メニューとして、特別高圧で受電する中小企業等向けの電気代支援等の対策を促進するとともに、電力使用量が最も多い１月から３月の電気・都市ガス代の支援を実施してまいります。

第三に、繊維産業における人材不足の解消です。繊維産業は、多くの外国人技能実習生を受け入れていますが、残念ながら労働関係法規などの違反事例が報告されていました。このため、日本繊維産業連盟と共同で設置した「繊維産業技能実習事業協議会」を通じて非加盟企業に対する働きかけ等の取組を実施してきました。こうした取組の結果、令和６年９月末より、追加要件を課した上で特定技能制度に「繊維業」が追加されました。追加要件のうち、特に「国際的な人権基準に適合して事業を行うこと」への対応について、繊維産業の監査要求事項・評価基準である「JASTI」の策定及び第三者監査制度として運用開始に向け、対応を進めていきます。また、人手不足に悩む中小企業等の売上拡大や生産性向上を後押しするため、カタログから汎用製品を選んで行うような簡易なプロセスによる中小企業省力化投資補助金や、ものづくり補助金等による生産設備の自動化等の支援策を用意していますので、是非とも御活用下さい。

第四に、サプライチェーンの強靱化です。従業員の高齢化・人手不足、新型コロナウイルス感染症による経済的ダメージ、取引先等の生産拠点が海外移転することの影響等により、国内繊維産業のサプライチェーンは、毀損リスクが顕在化しています。このため、経済産業省では、令和６年 10 月より「繊維産地におけるサプライチェーン強靱化に向けた対応検討会」を設置し、繊維産地におけるサプライチェーン強靭化に向けた円滑な事業承継や価値の向上等のための環境整備を図るべく議論を進めており、年度内には、その方向性をお示しする予定です。この検討会を通じて、国内の繊維産業における持続可能なサプライチェーンの実現を目指してまいります。

第五に、デジタル化・DX の推進です。近年、新たな販売チャネルである EC サイトを通じて、消費者との直接的な接点を持つことが可能となり、自社ブランドの認知度向上や新たな顧

客層の開拓に取り組む繊維企業や、生産性向上のため、産地の繊維企業が連携して DX に取り組む事例が出てきています。IT 導入補助金等の支援策を通じて、こうした繊維企業のデジタル化や産地での DX を後押ししていきます。

第六に、海外需要の獲得です。衣料品等の国内市場規模が減少傾向にある中、繊維企業・産地が競争力を維持・強化していくためには、輸出の割合が高い生地に加えて、独自の技術やデザインを活かした衣料品等の最終製品を製造し、海外需要の新たな販路を開拓することも重要になります。海外市場への展開では、日本貿易振興機構（ジェトロ）や中小企業基盤整備機構（中小機構）が一体となり、全国の商工会・商工会議所等と連携し、新たに輸出に挑戦する中堅・中小企業を支援する「新規輸出１万者支援プログラム」を実施しています。今後も皆様に対し情報提供や活用可能なツールの紹介を行うとともに、通商交渉・二国間協力等に加え、日本製品の価値の向上に向けた環境整備に取り組むなど、海外市場開拓やインバウンド需要の獲得に向けた取組を支援してまいります。

経済産業省としては、繊維産業の皆様と密に意見交換を図りながら、これまでに述べたような様々な施策を総動員し、創意工夫をもって前向きかつ意欲的に取り組む事業者の皆様方を応援してまいります。皆様の一層の御理解・御支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本年は大阪・関西万博の開催年であり、既に開催まで３ヶ月を切っています。「未来社会の実験場」として、最先端の技術が集結し、新たな産業の誕生・成長の機会になることを期待しています。ぜひ、ご家族やご友人と一緒に足を運んでいただきますようお願い申し上げます。

最後に、貴協会始め、我が国の繊維産業が大きな変革の時代を乗り越え、 飛躍する一年になることを祈念して、新年の挨拶とさせていただきます。

業界レポート 2024 年～2025 年リネン(亜麻)事情

【ヨーロッパにおけるフラックス・ライン生産状況推移】
FLAX-LINEN & HEMP ECONOMIC OBSERVATORY　(by 欧州麻連盟)

	2021	2022	2023	2024	2025
作付面積（ヘクタール）	119,000	145,000	150,000	186,000	未定
生産数量（トン）	147,000	152,000	140,000	116,000	未定
原料価格（ユーロ/kg）	2.80	4.05	6.45	7.93	未定

＊上記生産数量とは、原草（フラックス原料）を製線（スカッチング）加工したもの（フラックス・ライン）を指し、原草収穫量とは異なる。
＊2023 年度は天候不順により極端な不作であったため、2023 年の生産数量 14 万トンは、主に 2022 年度に収穫された原料を使用している。

2024 年は作付け面積の拡大に加え、天候にも恵まれため、フラックス原料はかなりの増収となった。その結果、原料価格の高騰や原料不足が緩和され、2025 年のフラックス・ラインの価格は値下がりが期待されている。しかし、欧州のスカッチング（製線工程）工場の生産キャパがネックとなり、市場へのフラックス原料の大量放出は考えにくいため、価格については乱高下はあるものの徐々に値下がりする模様。

【2024 中国リネン事情 】
2024 年欧州からフラックス原料輸入数量及び輸入単価
数量：１亜 9.35 万トン、2023 年に対し 30%減少
　　２亜 9.89 万トン、2023 年に対し 7 %増加
単価：１亜 月平均高値 10.19 $ /kg（2024 年 6 月）安値 7.72 $ /kg（2024 年 12 月）
　　２亜 月平均高値 4.83 $ /kg（2024 年 10 月）安値 2.67 $ /kg（2024 年 1 月）

（中国リネン糸の輸出量）
2024 年 1 万 6 千トン 対前年微増
（中国リネン織物〔亜麻 100%〕の輸出量）
2024 年 1 億 5 千万メートル 対前年横ばい

欧州からのコンテナ運賃高騰の影響により、フラックス原料の値下がりにも拘らず、買い付けは慎重となっている。旧正月明けの中国においては、原料購入契約後、中国到着は 60 日程度を要している。紡績工場の稼働率は昨年同様に低下したままで、原料到着次第稼働させる工場が大半と思われる。
＊上記資料提供：欧州麻連盟及び中国麻紡織行業協会

業界レポート 2024 年～2025 年ラミー(苧麻)事情

2024 年度ラミー原料に関する状況は以下の通りです。

1．2024 年度ラミーの栽培状況について

前年に引続き、2024 年の栽培状況について現地に調査、報告を依頼したものの、公式な記録がなく、正確な数字を把握する事は出来なかった。以下栽培面積、生産量、原草価格等は、複数社の情報を収集し、長年中国の原料を取扱っている原料商と駐在員にまとめてもらったものである。

2．ラミーの栽培面積及び生産量について（推定）

2024 年度は極端な高温、降水量の少なさなどの自然災害により、ラミー栽培は深刻な影響を受けた。主要産地は四川省（大竹県）・湖南省・湖北省・重慶市・江西省と従来と変わっていないが、災害による被害率は 30～40%と言われている。

2024 年度の原草の収穫量は約 10,000 トン（2023 年は約 15,000 トン）と推測される。収穫量が従来の予想に遠く及ばず、数年間安定していた苧麻原草のバランスが崩れ、麻農家と生産会社も品質の維持、契約数量の維持が難しくなってきている。

このような状況では需要と供給のバランスが崩れ、原草価格が高騰していく事が予想される。栽培面積は現在も昨年と同様で 8 万～10 万畝（6,600Ha）の間と推測されるが、ラミー畑としては約 15 万畝が中国国内にあるとされている。

3．ラミー価格について

原草価格については、2020 年以降の高止まり状態が 2023 年まで継続していたが、2024 年は下記のように更に値上りしている。

手剝ぎの麻は 30,000 元/トン（昨年 24,000 元/トン）、機械剝ぎの麻は 23,000～24,000 元/トン（昨年 18,000～20,000 元/トン）。

4．2025 年の見通しについて

2024 年の不作の影響により、生産工場では予定通り原草を手当できず、需要を賄えない事で更なる高騰を招く悪循環、品質の維持など問題が多い。

ラミー原料に関しては、2024 年のような自然災害が無い事を望まれるが、麻農家の高齢化、生産工場の減少等により、作付面積の大幅な増加は見込めない状況が続いている。したがって、地方政府や主要生産企業、麻農家が一体となり、市場への安定供給を果たしていく事が重要である。

亜麻・苧麻統計表

品目	輸入糸					
	亜麻糸		苧麻糸		計	
1—12月	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)	数量(t)	金額(千円)
平成26年	1,452	1,826,471	315	380,177	1,767	2,206,648
平成27年	1,512	2,149,292	307	448,620	1,819	2,597,912
平成28年	1,178	1,410,512	215	278,070	1,393	1,688,582
平成29年	1,294	1,490,800	220	299,854	1,514	1,790,654
平成30年	1,382	1,737,013	225	360,732	1,607	2,097,745
令和元年	1,315	1,751,145	163	272,176	1,478	2,023,321
令和2年	652	809,137	78	151,478	730	960,615
令和3年	819	1,091,591	74	152,199	893	1,243,790
令和4年	903	1,649,397	108	298,616	1,011	1,948,013
令和5年	850	2,059,580	89	261,378	939	2,320,958
令和6年	623	1,923,955	61	184,341	684	2,108,296

（注）財務省日本貿易統計による。

品目	輸入織物						輸入ハンカチ	
	亜麻織物		苧麻織物		計		亜麻・苧麻ハンカチ	
1—12月	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千㎡)	金額(千円)	数量(千枚)	金額(千円)
平成26年	7,365	3,236,254	687	274,121	8,052	3,510,375	85	44,298
平成27年	6,822	3,258,646	796	289,496	7,618	3,548,142	87	38,013
平成28年	7,642	3,037,204	641	219,255	8,283	3,256,459	83	32,654
平成29年	7,624	3,019,338	605	212,452	8,229	3,231,790	86	36,624
平成30年	7,609	3,289,511	674	269,854	8,283	3,559,365	61	29,381
令和元年	7,683	3,248,368	426	184,789	8,109	3,433,157	57	26,299
令和2年	6,347	2,345,238	383	175,882	6,730	2,521,120	75	23,444
令和3年	5,944	2,238,410	286	134,794	6,230	2,373,204	56	19,704
令和4年	5,039	2,655,833	178	108,398	5,218	2,764,231	99	26,249
令和5年	4,309	2,562,787	223	148,930	4,532	2,711,717	45	25,436
令和6年	3,453	2,436,069	396	221,899	3,849	2,657,968	39	23,688

（注）財務省日本貿易統計による。

会員企業紹介及び近況報告

株式会社テザック
代表取締役社長　杉浦 高志　　URL　http://www.tesac.co.jp

「結びつきを大切に」
外部環境は刻々と変化し、世代の変化とともに社会の考え方も変わってきます。さらに国際ルールは複雑となり、企業が存続していくためには、変化の対応が求められます。
それでも質の良い製品をご提供し続けることにより、現場の安全・安心につながるのならば、その価値観は変えずに、お客様のため、働く仲間のためにモノづくりをすることこそ、社会への貢献につながると信じています。あらゆる産業のニーズにお応えすべく、人と人、人と物、物と物の結びつきを大切にし、縁の下の力持ちとして製品を通じ社会に貢献する会社を目指します。

【企業理念】

【会社概要】

商号	株式会社テザック
本店	大阪市天王寺区東高津町 11 番 9 号
東京支店	東京都墨田区両国 1 丁目 12 番 8 号
取扱品目	ケナフ・ジュート糸・布・袋製品、合成樹脂糸・布・袋等製造・加工・販売、ロープ、テグス、ベルトスリング、ラッシングメルト、各種合繊ロープ製品、各種物流・建材製品、住宅用耐震補強金物
沿革	明治 40 年 1 月　泉州織物株式会社創立
	明治 45 年 4 月　関西製綱株式会社創立
	大正 4 年 6 月　東洋麻糸紡織株式会社創立
	大正 8 年 6 月　佐野紡績株式会社創立
	昭和 18 年 9 月　上記 4 社合併により帝國産業株式会社を設立
	昭和 63 年 10 月　商号を株式会社テザックに変更
	平成 7 年 4 月　製造部門を二色浜製造所へ集約。製造を開始

会員企業紹介及び近況報告

グロリア株式会社
代表取締役社長　永井 秀明

当社は、「和」を根本に、ユニフォームを通じて社会に貢献する企業を目指しています。主に官公庁シャツ制服を生産しており、当社で縫製しております警察官用夏服シャツに関しては、男性用はすべてのユーザーで麻混の生地を使用しています。また、近年では、地元銀行の千葉銀行のクラウドファンディングを利用し自然に帰る素材である麻の生地を地場の染色作家に依頼して藍染を施し販売するなど麻とは深い関わりがあります。

平成 30 年 11 月に皆様のお力添えもあり、千葉県南房総市石堂の地に工場を移転しました。房総の魅力 500 選にも選ばれた自然豊かな石堂寺の麓にある小学校の廃校を活用し、体育館は倉庫に、学校の建物は従業員の食堂、休憩場所、実習生の宿舎として再利用しています。管理棟、工場に関しては新築致しました。

【会社概要】

商号	グロリア株式会社
創業	1960 年(昭和 35 年) 7 月 29 日
従業員数	98 名
資本金	４千万円
事業内容	官公庁、民間特需ユニフォーム、ワイシャツ、カジュアルシャツ、その他の繊維二次製品
所在地	千葉県南房総市石堂 312-1
財団法人	日本繊維製品品質技術センター　QTEC 認証工場

会員企業紹介及び近況報告

株式会社穂高商事
代表取締役　佐野 宏

【代表挨拶】

1976 年に地元横浜で小さな事務所からスタートし、来年で創立 50 周年を迎えます。

おかげさまでこれまで県内官公庁はじめ、多くの民間企業のお客様の制服作りに携わらせて頂きました。ユニフォームは「現場に出る全ての人にとって常に安全で快適な衣類でなければならない」その想いから、お客様の声に寄り添えるユニフォームづくりを目指して来ました。ファッション重視のアパレルとは異なり、夏は涼しく冬は暖かく、年々変化する環境も考慮しながら、常に快適で安全なユニフォームに最新のファッション性も取り入れての提案が出来るのが弊社の強みです。各現場の環境に合わせて最適な素材を厳選し、イメージカラーをベースに納得のいくまで色合わせをし、時代に合ったデザインと機能性を適えたユニフォームをご提案させて頂いております。これからもお客様のユニフォームに対する想いを第一に考え、地元横浜から広く社会に貢献出来るよう、また一人でも多くのお客様に「穂高商事にお願いして良かった」と言って頂けるように、100 周年に向けて社員一同真摯に向き合って参ります。

【会社概要】

商号：株式会社穂高商事
設立：1976 年 4 月
資本金：1,100 万円
代表者：代表取締役　佐野 宏
所在地：横浜市中区本町 2 丁目 14 番地　大同生命横浜ビル 8 階
https://www.hotakashouji.com/

【経営理念】

誠実・責任・努力

【麻への関わり】

天然素材の「麻」は通年を通してお勧め出来る機能素材ですので、官公庁はじめ多くのお客様にご利用頂いております。

【取扱商品】

作業服・事務服・白衣・安全靴・合羽・防寒・猛暑対策品・防災備蓄品・衛生用品、ヘルメット、皮革製品他

新　会　員　企　業　紹　介

有限会社亜麻公社
代表取締役　橋本 俊彦

当社は 2001 年創業、北海道石狩郡当別町に拠点を置く、亜麻を活用した商品の企画・開発・製造・販売を手掛ける企業です。

【事業内容と製品】

当社は、亜麻の種子から抽出される亜麻仁油をはじめ、ドレッシング、石鹸、焙煎した亜麻の実、画用液など、多彩な製品を展開しています。これらの製品は、農薬を使用せずに栽培された北海道産の亜麻を原料としており、品質と安全性にこだわっています。

- **高品質な製品**：北海道産の農薬不使用の亜麻を原料とし、コールドプレス製法で抽出した黄金色のオイルを、サプリメントや生食用油として商品化。
- **多様な商品ラインナップ**：食品からスキンケア製品まで、亜麻の特性を活かした多彩な商品を提供。
- **地域密着型の活動**：地元農家との連携や地域イベントの開催を通じ、地域経済の活性化に貢献。
- **環境への配慮**：農薬を使用しない栽培方法や、亜麻の全ての魅力を活用する製品開発で、持続可能な社会に寄与。

【地域活性化への取り組み】

当社は亜麻を通じた地域づくりにも積極的に取り組んでいます。2008 年からは「北海道亜麻まつり」を開催し、亜麻の魅力を広く発信しています。また地元の小学校では卒業生に、亜麻の講座とあわせて、リネンハンカチの寄贈も行っており、地域との連携を深めています。

亜麻公社は、亜麻の持つ可能性を最大限に引き出し、製品を通じて人々の生活を豊かにするとともに、地域社会の発展にも寄与しています。

【北海道亜麻まつり in 当別】

2025年は 7 月 6 日(日)に開催します。是非お越しください。

【企業概要】

商号　有限会社亜麻公社
創業　2001 年
設立　2004 年 2 月 10 日
資本金　1,200 万円
代表者　代表取締役　橋本 俊彦
所在地　〒061-3772 北海道石狩郡当別町獅子内 2113-8
TEL　0133-25-3730
Email　info@amakousya.co.jp

新　会　員　企　業　紹　介

一般財団法人 岐阜県蚕糸協会
代表理事　白木 敏彦

１．はじめに

当協会は、岐阜県内の農家・企業等で生産された繭を岐阜県蚕糸協会を通じて実需者に供給しています。原料繭は極めて品質が良く、高品質な生糸及び最終製品である和楽器糸等の生産に貢献しています。今後とも、協会では繭生産に意欲がある新規生産者の掘り起こしと繭生産環境の高位平準化を進めるとともに、高品質で経営的に安定した繭生産ができるよう支援して参ります。また、川上から川下までの連携を強化し情報共有を図るため、繭生産者に最終製品までの生産状況を把握するための機会づくりをすすめていきたいと考えています。

２．協会の概要

（１）設立　　1961 年（昭和 36 年）２月
（２）代表者　代表理事　白木 敏彦
（３）所在地　岐阜県美濃加茂市加茂野町今泉 1546－８
（４）連絡先　TEL・FAX 0574－66－3277
（５）Email　　gifukensansikyokai@tmt.ne.jp

３．事業内容

（１）県内繭生産者への経営及び技術支援と良質繭の集荷、製糸業者への斡旋
（２）県産繭を活用した商品開発支援
（３）実需者である蚕糸・絹業提携グループとの連携
（４）川上（繭生産）から川下（生糸製品）一帯となった新たな事業展開
（５）イベント等を通じた県内蚕糸業の取り組み紹介

４．麻への関わりと新商品への展開

新たな事業展開として、動物繊維である「絹」と植物繊維である「麻」の特長を生かした混紡製品の商品開発に期待をしています。

新　会　員　企　業　紹　介

三共修整有限会社
代表取締役　林 義明

当社は、1972 年 12 月の創業以来、織物修整業を専門に手がけ、50 年以上にわたり業界の品質向上に貢献してまいりました。創業当初は麻関連の織物修整にも携わり、その経験を活かしながら、厳しい基準を求められる学生服生地や防災服生地の修整を中心に、多様な繊維製品の品質管理を担っております。

織物の検査・補修においては、長年培った熟練の技術と確かな目利きを活かし、繊細な生地にも対応してきたことで、繊維メーカーやアパレル業界からの信頼をいただきながら、高度な品質基準を満たす製品づくりに取り組んでおります。

また、近年の市場ニーズに応じ、学生服のブレザー生地などの新たな分野にも積極的に対応するとともに、日本麻紡績協会への加入をきっかけに、麻関連の修整にも再び力を入れていく方針です。かつての経験と最新の技術を融合させ、麻繊維特有の風合いや特長を生かしつつ、高品質な修整技術を提供することで、業界の発展に貢献してまいります。

今後も「品質第一」をモットーに、お客様のニーズに寄り添いながら、さらなる技術向上とサービスの充実を図ってまいります。

【会社概要】

- 会社名　三共修整有限会社
- 設立　1972 年 12 月
- 資本金　521 万円
- 事業内容 織物修整業（学生服生地・防災服生地・麻関連生地の修整）
- 所在地　岐阜県養老郡養老町根古地 206

国際会議（第一回東京国際ヘンプカンファレンス）報告

日本麻紡績協会
専務理事　香山 学

令和６年9月24日～26日に開催の国際会議に招待・講演依頼されましたので、以下簡潔に報告します。

【主催】一般社団法人日本ヘンプ協会
JIHA：Japan Industrial Hemp Association
【会場】東京都立産業貿易センター浜松町館

海外から約 500 名参加。タイトル「ヘンプとカンナビノイドの科学・産業の発展 “Advances of Hemp /Cannabinoid Sciences and Industries”」、筆者講演のタイトル“Prospect of Bast Fibre in Japan for Sustainable Growth”は、日本語のサブタイトルを「麻繊維の日本での歴史と展望」とし、パワーポイント 59頁で以下の内容を英語で報告した。

【講演内容】①繊維及び植物としての麻の種類（靭皮繊維、葉脈繊維、茎幹繊維）、②亜麻、苧麻、大麻の特徴、③日本麻紡績協会について、④麻と宗教、歴史と伝統文化、⑤亜麻の日本での現況と展望、⑥リネン・コンポジット、衣料分野以外の展開（Green Composite）、⑦Edible Linseed Oil(食用亜麻仁油 オメガ３脂肪酸)、⑧リネンの特徴 吸水性と接触冷温感（ラローズ法、Q-max）、⑨亜麻の花景色（フランス：ノルマンディー、ベルギー：フランダース、北海道当別町）、⑩Christian Dior、Giorgio Armani 両巨匠のリネンへの想い、⑪Market Size of Textile & Linen industries in Japan、⑫日本市場での麻製品の展望、⑬日本市場での麻繊維の強み、⑭人類最古の繊維「麻」亜麻と大麻の考古学的考察、⑮「麻繊維」の未来、⑯陸 忠社長への謝辞、⑰引用・参考文献。

【所感】本会議のメイン演題が医療用ヘンプ、カンナビノイド（cannabinoid）であり、15 名余りのメインスピーカーのうち、繊維としてのヘンプ（大麻）素材についての講演発表は日本麻紡績協会からの筆者と、欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp）の総代表である Ms. Marie-Emmanuelle Belzung の二人だけであった。特別講演者は、ノーベル生理学・医学賞候補の最有力と言われ、遺伝子マーカーを発見し、「ゲノム医療」を牽引してきた東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長の中村祐輔教授であり、国際会議（JIHA）の演題は「AI とゲノム情報を活用した未来の医療」であった。大変興味深い講演であったが、筆者は次の演者であり、自身のスピーチの最終チェックをしていたために中村教授の講演内容を十分に聴けなかったのが悔やまれる。そして、今回の国際会議の参加者へのギフトとしてヘンプ・ハンカチーフを 500 枚準備されたが、特別な計らいで作製に協力して下さったのが、日本麻紡績協会のメンバーである（株）ANTS JAPAN の経営者村瀬公一氏と陸 忠氏であった。ヘンプハンカチーフの提供によって、参加メンバーに繊維素材としての気付きと認識を新たにすることができた。前述のように、主要演目が医療用カンナビノイドであったので、逆に繊維としてのヘンプに新鮮さも手伝い、講演終了後、筆者との名刺交換を要望される方々が並んでくださったのは感謝であった。

国際会議（Global Linen Textile Forum）報告

日本麻紡績協会
専務理事　香山 学

令和６年 11月に Global Linen Textile Forum（国際リネン・フォーラム）に招待・講演依頼されましたので、以下報告します。

【会場】エチオピア、アディスアベバ市内ホテル及び
ADAMA 県（アディスアベバから北 90km 新規工場）

【会期】2024.11.20～11.23

【参加目的】

本フォーラムに於いて、欧州地区、とりわけベルギーやフランスの原料生産者から現況を直接確認して、国内市場からの種々の要求への回答に役立てるため、最新のリネン、フラックス生産に関わるグローバルな情報収集を実施し、今後、当協会メンバーの麻ビジネス拡大に繋げていく。加えて、KINGDOM 社ほか、各国からの担当者との親交を深め、日本麻紡績協会のグローバルな存在感を印象づけることも目的とした。

【会議概要】

今回の会議は、KINGDOM 社が主催し、中国麻紡織行業協会は後援という形式を取っている。同社の強い影響力と、任 維明主席の求心力によって、参加国は、英国、フランス、ベルギー、オランダ、インド、トルコ、中国、パキスタン、エチオピア、日本であり、合計 300 名以上が参加した。日本の参加者は、日本麻紡績協会２名、ファーストリテイリング（ユニクロ）３名、良品計画（無印良品）２名であった。基調講演は、エジプト政府投資責任者２名であり、続いて、主催者の KINGDOM 社 任 維明主席及び Ms. Betelhem Kassim、欧州麻連盟の Ms. Marie-Emmanuelle Belzung 総代表、中国麻紡織行業協会の董 春興会長、日本麻紡績協会の香山がそれぞれ報告した。

【講演内容】

① KINGDOM 社 任 維明主席の講演：５年前 7000 万米ドル(約 108 億円)の投資で潤紡績工場を設立。工場規模：2.5 万錘、3600 トン/年の糸生産。現地従業員 1100 名採用（内中国人管理者 20 名)。現在同社グループ全体 15 万錘（全中国の 1/6 を占める)。年間糸生産量３万トン。

売上：450 億円（純利 30 億円）、グループ従業員数 4000人。年間欧州リネン原料の 20%使用。近年原料から糸出荷まで全てのトレーサビリティ、カートンにバーコード印刷、スマートフォンから産地情報、各工場、各工程の二酸化炭素排出情報、水使用量など検索可能にする可視化を実現した。今後の戦略について：2026 年までに、エジプト原料使用、インド向け輸出を狙い、エジプトにてアフリカ第二リネン潤紡績工場設立予定。加えて、欧州にて 5 社共同出資によるリネン潤紡績工場をポルトガルに設立予定。うち KINGDOM 社は最大出資先である。

② 中国麻紡織行業協会 董 春興会長報告：中国リネン紡績現況、3 年前のリネン価格高騰の影響で麻業界全体として不況となり、経営状態悪化企業が多く存在している。今後の原料値下げで企業生産回復につれ業績回復が期待される。同会長はリネンを通じ、共同開発、共同発展、ウィン・ウィンの関係作りが重要と強調された。尚、中国国内アパレル各社のリネンに対する見通しは、SDGs での環境意識や、天然繊維指向も高まり、従来の輸出指向から国内消費指向へとシフト変換もみられ、内需にも期待が高まる。欧州原料メーカーに対し、原料供給の量的安定と、リーズナブルな価格設定等が要望された。

③ 日本麻紡績協会 香山報告： 日本市場に於ける麻（亜麻・苧麻・大麻）素材の近年及び直近の市場現況と動向に加え、麻に対する歴史的な文化との関連性についても言及した。加えて、日本麻市場の強みを、吸水性（ラローズ法）や接触冷感（Q-max 法）のテスト結果による数値も報告した。日本国内での生産地としては縮小を余儀なくされているが、市場性については、高温多湿な気候条件、さらに近年の猛暑や酷暑の情況、加えて古来よりの高級な麻繊維に対する嗜好性により、麻に対する需要は拡大していると報告した。

④ 欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen＆Hemp　旧 CELC） Marie-Emmanuelle Belzung 総代表報告：EUROPEAN FLAX ブランド使用の説明。近年の欧州リネン栽培面積は毎年約 20%拡大傾向にある、その他、全体 20%を秋播種のウィンターリネンを導入し、昨年の収穫量は播種数量の 50%程度になった。2024 年は耐低温種の品種改良によりこれまで以上の収穫が期待できる（10月種まき、翌年の 5-6月収穫。通常の春リネンは 3月種まき、7月収穫）。これにより天候不順のリスク分散が可能となる（本誌 p.6 および p.18 の図表を参照のこと）。

⑤ インド HOUSE OF BURGOYNE 社は、インド全体でリネン潤紡績は 13 万錘に達し、自国必要消費用数量 3 万トン、自国産 2.5 万トン、輸入5 千トンで賄う。

【所感】

今回の 3 日間、日本麻紡績協会会員への情報提供に向けて、海外参加者との情報交換、データ収集等を精力的に行った。そして、過去 20 年間、欧州麻会議にて英語での報告を重ねてきたが、今回の講演はとても好評で、壇上から降りて各国の代表から握手攻めに遇って学んだことは、英語力は上達せずとも日本文化と歴史を交え、数値を示し、ビジュアルを駆使し、簡潔明瞭に情熱を込めて話すことであった。

欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp）からの最新情報

FLAX-LINEN & HEMP
ECONOMIC OBSERVATORY

Information Bulletin Q1
– 3 February 2025

Flax fibre – 2025: Strong supply and price correction

The 2024 harvest, scutched since the autumn, has been marked by a record area under cultivation in the Masters of Flax Fibre™ (ex-European Flax™) long-fibre cultivation and production zone, along with a high fibre yield.

This strong harvest, welcomed by the European industry, follows a particularly weak 2023 season and a series of below-trend harvests since 2020.

As a reminder, in our last industry update on November 21, 2024, we announced that production of Masters of Flax Fibre™ (ex-European Flax™) long fibres between January and June 2025 was expected to exceed 18,000 tonnes per month.

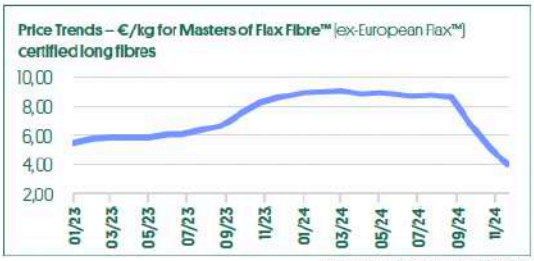
To date, the production outlook remains between 17,000 and 18,000 tonnes per month, confirming that the first half of 2025 will see production levels close to historical highs.

The end of 2024 and the beginning of 2025 have seen an expected price correction in the sale price of Masters of Flax Fibre™ (ex-European Flax™) long fibres.

As farmers finalize their crop rotation choices for 2025, here is the latest confirmed information from the European industry:

Prices:

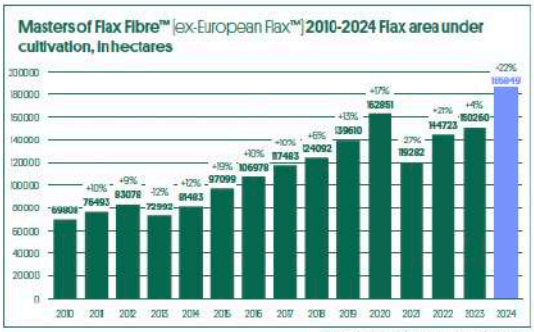
- After reaching a peak in spring 2024 at around €9 per kilo on average — across all qualities and production regions — and remaining stable until summer, prices began to decline.
- This decline was relatively gradual at first and accelerated in the autumn. The Alliance for European Flax-Linen and Hemp recorded an average price of €6.78/kg in October, €5.23/kg in November and €3.96/kg in December 2024.
  As of today, the January 2025 figure has not yet been consolidated.



Source: Flax-Linen & Hemp Economic Observatory

Area under cultivation – 2025 outlook:

- The 2025 area under cultivation is not yet known, as the sowing period has not begun. However, industry professionals expect a slight increase in the area under cultivation across the entire Masters of Flax Fibre™ (ex-European Flax™) zone, covering France, Belgium, and the Netherlands, compared to 2024. Regarding winter Flax, sown at the end of autumn and generally harvested several weeks before spring Flax, the area under cultivation is estimated at approximately 30,000 hectares across the three countries. This represents an expected level close to that of the previous year.
- A more detailed outlook on the total area under cultivation will be published in the next quarterly update scheduled for spring 2025.



Source: Flax-Linen & Hemp Economic Observatory

欧州３カ国（フランス、ベルギー、オランダ）における 2010～2024 年の作付け面積推移

Contact

Damien Durand
Economics Director
ddurand@allianceflaxlinenhemp.eu

Dimitri Soverini
Members Relation Director
dsoverini@allianceflaxlinenhemp.eu

Key figures in Flax-Linen fibre production

LINEN

3/4 of the world's long* fibre
are produced in France, Belgium and the Netherlands*

*Long fibres: the main product of scutching, used in the textile industry

Today, Flax fibres* account for
< 0,5% of global textile fibre production

*Long fibres + short fibes

Europe, the #1 global producer of Flax fibre

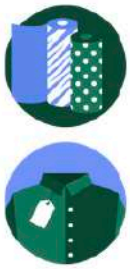
3 main Flax-producing regions in France:
Normandie
Hauts-de-France
Ile-de-France

+ 128% increase in Flax growing area
from 2014 - 2024

185,000 hectares in Europe of Flax
in 2024 (incl. 87% in France: 162,000 hectares)

140,000 tonnes
of long fibres in 2023
(incl. 122,000 tonnes in France)

1 hectare of European Flax
=



900 kg of yarns
or **3,750 m2 of fabrics**
or **4,000 shirts**
or **450 sets of bed linens**
or **1,375 chairs made of composite Flax**

Source: 2024 Economic Observatory of the Alliance for European Flax-Linen & Hemp, FAO, interchanve

About Alliance

The Alliance for European Flax-Linen & Hemp (formerly known as CELC, an association founded in 1951) is the only European agro-industrial organization that serves as a global reference and brings together all players in the European Flax-Linen and Hemp value chain.

A platform for reflection, current analysis, collaboration and strategic orientation, the Alliance for European Flax-Linen & Hemp supports an industry of excellence in a globalised context. It encourages dialogue with national and European public authorities.

It promotes an environment favourable to increasing business competitiveness through its three-fold mission of informing members, brands, and consumers, supporting the European ecosystem and European expertise, and promoting European Flax-Linen and Hemp as the preferred sustainable premium fibres worldwide.

It connects 10,000 businesses in 16 European countries and bases its work on the values of solidarity, innovation, scientific validation, and respect for people and planet.

It promotes, initiates, and organizes strategic reflection and research on its fibres in order to provide all of its interlocutors with evidence-based environmental data and reliable scientific evidence.

The Alliance for European Flax-Linen & Hemp strives to increase the international visibility of its fibres, whose technical and environmental properties inspire global design and open up new opportunities for industrial innovation. It guarantees the traceability of Flax fibre thanks to the Masters of Flax Fibre™ (ex-European Flax™) and Masters of Linen™ certifications.

Alliance for European Flax-Linen & Hemp

Follow us
@flaxlinenhemp
allianceflaxlinenhemp.eu

出典：https://allianceflaxlinenhemp.eu/en
https://allianceflaxlinenhemp.eu/en/document_resources/195/download

【前章：FLAX-LINEN & HEMP ECONOMIC OBSERVATORY(日本語訳)
By 欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp)】

亜麻繊維 ～2025 年　堅調な供給と価格修正：

2024 年の収穫は、記録的な作付け面積と、秋より始まった Long Fibres の高い収穫量によって特徴づけられた。この好調な収穫は、特に低迷した 2023 年シーズンと、2020 年以降の一連のトレンド以下の収穫に続くもので、欧州の業界はこれを歓迎している。
2024 年 11月21日の前回の業界最新情報では、2025 年 1 月～ 6 月にかけての Masters of Flax Fibre™（旧ヨーロッパ産亜麻™）長繊維の生産量が月産 18,000 トンを超える見込みと発表した。2024 年末から 2025 年初めにかけて、Masters of Flax Fibre™（旧ヨーロッパ産亜麻™）長繊維の販売価格は予想通り調整された。

作付け面積 ～2025 年の見通し:

2025 年の作付け面積は、播種期が始まっていないため、まだ不明である。しかし、業界の専門家は、Masters of Flax Fibre™（旧ヨーロッパ亜麻ゾーン、フランス、ベルギー、オランダ)全体の作付け面積が 2024 年に比べてわずかに増加すると予想している。秋の終わりに播種され、通常スプリング・リネンの数週間前に収穫されるウインターリネンについては、作付け面積は 3 ヶ国全体で約 30,000 ヘクタールと推定されている。これは、前年とほぼ同等の予想レベルを表している。作付け総面積に関するより詳細な見通しは、2025 年春に予定されている次回の四半期更新で発表される予定である。

価 格：

2024 年春に全品質・産地平均で 1 キロあたり約 9 ユーロのピークに達し、夏まで安定した状態が続いた後、価格は下落に転じた。この下落は当初は比較的緩やかで、秋に加速した。欧州亜麻・リネン・麻連盟は、10月の平均価格 6.78 ユーロ／kg、11月5.23 ユーロ／kg、12月3.96 ユーロ／kg を記録した。今日現在、2025 年 1月の数字はまだ纏められていない。

アライアンスについて：

欧州麻連盟（Alliance for European Flax-Linen & Hemp: 旧名 CELC、1951 年設立）は、欧州のリネン（亜麻）とヘンプ（大麻）のバリューチェーンに関わるすべてのプレーヤーを結集し、世界的なリファレンスとして機能する唯一の欧州産業界団体である。考察、現状分析、共同研究・開発、戦略的方向付けのためのプラットフォームである欧州麻連盟は、グローバル化した状況において卓越した産業を支援している。会員、ブランド、消費者に情報を提供し、欧州のエコシステムと欧州の専門知識を支援し、持続可能なプレミアム繊維として欧州のリネンとヘンプを世界に普及させるという 3 つの使命を通じて、ビジネスの競争力強化に有利な環境を促進している。欧州麻連盟は、その技術的・環境的特性が世界的なデザインにインスピレーションを与え、産業革新の新たな機会を開く繊維の国際的認知度を高めるよう努めている。また、Masters of Flax Fibre™（旧 European Flax™）と Masters of Linen™の認証により、亜麻繊維のトレーサビリティを保証している。

海外情報　PREMIERE VISION 2026 春夏向展示会（2/11-13）

トスコ株式会社
取締役　田村 勝美

【開催期間】
2025 年 2 月 11 日～2025 年 2 月 13 日　フランス（パリ）

【2026 年春夏向　Première Vision シーズンカラーとテーマ】
リフレッシュ、リセット、リストア、という 3 つのキーワードを軸に素材やイメージカラーを構成。

リフレッシュ ・ Re-fresh
世界的な温暖化による酷暑の夏場に、ファッションインダストリーを含めてどのように素材、産業を再構築するか？という気候の変化や環境負荷に絡んだコンセプトを踏まえ、暑い夏にクールダウンできる機能素材や気持ちがリフレッシュするようなくすみのあるライトグリーンのグラデーション、ライトグレー、ベージュ、ライトブルーからミドルトーンのブルーグラデーションなど、見た目にも涼しく感じる色のグループとなっている。
素材のイメージも、植物や氷をイメージした涼しげな表面感、つるっとした光沢感、透け感、メッシュなどが見られる。

リセット ・ Re-set
快楽の追求や人とのつながりでの感情の高まり、喜び、遊び心といった心情的な感覚や五感を色で表現しており、暖色を中心としたオレンジの濃淡やピンクから赤にかけてのグラデーションの中にグレーの濃淡を合わせている。この暖色系の色は差し色や、プリント柄で生かしたイメージであった。

リストア ・ Re-store
サスティナブルな観点を踏まえ、土壌から産業まですべてを再構築・回復させるというコンセプト。サスティナブルな流れの中で、リサイクル、リペアを推進し、さらにその製品の高品質化を目指すといった内容。アースカラーをイメージしたこげ茶の濃淡、植物をイメージした黄色～グリーン～深緑のグラデーション、ネイビーから紫の濃淡の組み合わせとなっている。

【出展社、来場者、エリア構成】
＜出展社数＞
2026 年春夏向→1100 社（2025 年春夏向→1800 社）に減少。
日本企業出展社数は当社含めて 40 社、昨年は 46 社であった。
＜来場者数＞
2026 年春夏向→126 ヶ国約 30,000 名（2025 年春夏向→125 ヶ国 30,340 名）
（PV 本部からの概算値なので 30,000 名を切っている可能性が高い）
＜エリア構成＞
YARNS・LEATHER・ACCESSORIES など 9 つの分野に分かれ展示が行われている。トスコは FABRICS に関するブースとして、ラミー・リネン・ヘンプ・和紙を使用した生地を中心に全 79 品番を展示した。自社展示ブース場所は HALL5、HALL6 と分かれる会場のうち HALL6

の比較的入口に近い場所に位置し、周りにはヨーロッパリネン＆麻連盟（旧 CELC）の展示ブースもあり、人通りも良い場所であった。

＜PV＞

PV はここ何年もミラノウニカと開催日や出展社、集客をめぐって競争しており、コロナ後に PV が会場スペースを埋めるために、トルコ、中国、インド企業の出展を増やした事で展示会の質が下がったとも言われている。イタリアの有名素材メーカーもこぞって出展を取りやめている。世界的に見ても生地の展示会の変革期に来ている。

日本国内の販売縮小に伴い、各社とも海外販売へ注力しているが、日本国内での物作りでリードタイム、生産数量制約もあり、素材選定も含めて課題は多い。

新 刊 書 紹 介

［お問い合わせ］
株式会社 共同文化社　〒060-0033 札幌市中央区北３条東５丁目
Tel 011-251-8078　Fax 011-232-8228
E-mail info@kyodo-bunkasha.net
URL https://www.kyodo-bunkasha.net/

本書**『その花可憐(かれん)に色青し』**は、先ずリネン花を形容するそのタイトルの新鮮さと爽やかさに魅了される。サブタイトルに「北海道亜麻物語」と記された、北海道における亜麻（リネン）の歴史と現在の亜麻（リネン）ルネッサンスプロジェクトに至るまで、フルカラーでの写真を多用した 220 頁の大著である。その丹念な記述と調査の緻密さとで読者を飽きさせない内容となっている。「あとがき」には、著者が物心ついていない 1961（昭和 36）年ごろまで、北海道江別市の生家では数反歩の亜麻を作付けしていたと記述されている。

近年稀にみる膨大な資料を駆使され、素晴らしい麻の大著を上梓された齊藤俊彦氏に心から敬意を表し、日本麻紡績協会会員の皆様に本書を紹介いたします。（文責 M.K.）

亜麻に興味をそそられた編著者の齊藤俊彦氏は、「北海道亜麻まつり in 当別」で出会った亜麻公社の橋本眞一会長や亜麻生産農家の方たちと会話をする中で、生来の探究心に火がつきました。第１章「亜麻ってなに？」からはじまり、第２章「亜麻栽培と製麻産業の歴史」では北海道での亜麻栽培、製麻工場などの歴史を掲載しています。第３章「道内にある麻のつく地名」では、江別市大麻、札幌市北区麻生町などを紹介しています。第4章「文学に表れた亜麻」では有島武郎、久保栄、中城ふみ子を取り上げています。最終章の第5章では「現代のあまびと」と称し、亜麻ルネサンスプロジェクトや道内で亜麻に関わる方々を丹念に取材した内容を収録しています。（出版社販促チラシより）

齊藤 俊彦(さいとう としひこ)
1958(昭和 33)年　北海道江別市生まれ
1982(昭和 57)年　北海道大学文学部史学科卒。江別市に奉職。
1992(平成４)年　総務部市史編さんを担当、1995 年まで『えべつ昭和史』編さん事業に従事。
2014(平成 26)年　教育委員会教育部長
2016(平成 28)年　総務部長
2018(平成 30)年　江別市を定年退職。同年、株式会社江別振興公社代表取締役社長に就任。
2023(令和５)年　同社社長を退任。同年、江別市総務部市史・行政資料担当専門員(嘱託)に任用され、現在に至る。

日本麻紡績協会の現況

日本麻紡績協会の年間活動報告

令和７年５月

（１） 現況

日本麻紡績協会は 2008 年 5 月に新体制で再出発、今年 17 年目を迎えることが出来ました。

現在会員数は新たに５社が加わり 108 社となり、紡績、商社、各生産会社（撚糸、織、編、染色・加工、縫製）や企画、小売に至る麻に関る全ての業種に会員が拡大、引き続き消費者への麻の浸透に努めております。

（２） 麻を取り巻く環境

原材料の輸入が中心である繊維業界は昨年からの原材料価格高騰、歴史的円安の中で、経営環境の厳しい状況が続いています。麻業界に於いても、特にリネン糸の価格は、一昨年の２倍となり、国内アパレル各社を中心にファッション衣料、靴下向け、小物などで使用を抑える動きもあり、各社、対応に苦慮している状況です。また、各種加工場においても、人員確保、コストアップの転嫁など多くの課題をかかえています。

麻素材は引き続き「サスティナブル」「SDGs」など注目される素材として期待されています。最近では国内市場の縮小を見据えて、海外市場（特に欧州、アメリカ）の販売に注力し始めており、今後も業界をあげて取り組んでいきます。日本における麻素材を中心とした唯一の団体 ASABO（日本麻紡績協会）の役割・存在感が益々高くなってきており、協会会員間のビジネスも取引から取り組みへと進化しつつあります。

（３） 活動報告

国内、海外とも展示会は、コロナ後デジタル展からリアル展に転じ、対面での活発な商談が繰り広げられました。国内ジャパンクリエーション、ヤーンフェア等への参加はもとより、イタリア「ミラノ・ウニカ展」、フランス「プルミエール・ヴィジョン」及び中国「インターテキスタイル上海」の各展示会へ日本麻紡績協会のメンバーが出展しました。

2024 年 9 月 24～26 日 東京都立産業貿易センター浜松町館にて、第一回東京国際ヘンプカンファレンスが開催され、香山専務理事が“Prospect of Bast Fibre in Japan for Sustainable Growth” 日本語 サブタイトル「麻繊維の日本での歴史と展望」と題して講演を行いました。

2024 年 11 月 20～22 日、中国 KINGDOM 社主催の Global Linen Textile Forum（国際リネン・フォーラム）がエチオピアで開催され、関係各国から約 300 名が出席し、日本から日本麻紡績協会、ファーストリテイリング、良品計画の３団体から計７名が参加しました。日本麻紡績協会の香山学専務理事が「日本の麻を取り巻く環境」と題して講演を行いました。

（４）令和７年度　国内定例行事等

- 令和７年１月 16 日　年賀交歓会（来場者 71 社 138 名　来賓６名）
- 令和７年５月 14 日　理事会・総会（総会後懇親会）予定
- 令和８年１月　　年賀交歓会予定

日本麻紡績協会　107社、1協同組合（50音順）

ア
1 青葉株式会社
2 株式会社AKAI
3 株式会社アクシス
4 浅記株式会社
5 朝日加工株式会社
6 旭紡績株式会社
7 アトモスフェール・ジャポン株式会社
8 有限会社亜麻公社
9 株式会社アマックスコーポレーション
10 株式会社ANTS JAPAN
11 アンドー株式会社
12 今村株式会社
13 岩田工房
14 栄光染色株式会社
15 越前屋多崎株式会社
16 エップヤーン有限会社
17 株式会社エヌ・ビー・アール
18 近江織物株式会社
19 株式会社大志茂
20 オーハシセンイ株式会社
21 大森撚糸株式会社
22 小千谷織物同業協同組合

カ
23 有限会社金丸整理工業
24 甲株式会社
25 有限会社川登
26 株式会社カンセン
27 株式会社関東小池
28 菊高産業株式会社
29 岐セン株式会社
30 一般社団法人岐阜県蚕糸協会
31 株式会社キョウワソーイング
32 株式会社金原
33 グロリア株式会社
34 KBツヅキ株式会社
35 株式会社ケンランド
36 興和株式会社
37 有限会社小啓修整織物

サ
38 サイボー株式会社
39 澤染工有限会社
40 三共修整有限会社
41 株式会社三幸
42 株式会社三幸ソーイング
43 株式会社三和リネン
44 有限会社シービープランニング
45 滋賀麻工業株式会社
46 信友株式会社
47 株式会社ジャスカ
48 株式会社成願
49 聖天株式会社
50 新成物産株式会社
51 新陽株式会社
52 鈴木晒整理株式会社
53 装研株式会社
54 株式会社装備開発機構

タ
55 株式会社ダイイチ
56 大恒株式会社
57 株式会社大長
58 株式会社タグチ
59 株式会社武田商店
60 株式会社タケミクロス
61 辰野株式会社
62 田村駒株式会社
63 帝国繊維株式会社
64 有限会社テキスタイルベガ
65 株式会社テザック
66 東興産業株式会社
67 東洋繊維株式会社
68 東洋物産株式会社
69 東和株式会社
70 株式会社トーホーユニ
71 トスコ株式会社
72 殿岡服飾工業株式会社
73 豊川テキスタイル株式会社
74 豊田株式会社

ナ
75 中伝毛織株式会社
76 中村株式会社
77 有限会社ナカモリ
78 ニイガタテキスタイル株式会社
79 西本株式会社
80 西山繊維株式会社
81 日新実業株式会社
82 ニット技研

ハ
83 ハイランド株式会社
84 服部テキスタイル株式会社
85 平岡織染株式会社
86 株式会社廣瀬商会
87 廣瀬又一株式会社
88 藤居織物工場
89 ブルーミング中西株式会社
90 株式会社穂高商事
91 ボーザールインターナショナルオフィス

マ
92 株式会社麻絲商会
93 丸佐株式会社
94 丸進工業株式会社
95 株式会社丸萬
96 三重ユニフォーム株式会社
97 株式会社三﨑
98 ミマス株式会社
99 未来テクノ株式会社
100 株式会社武蔵富装
101 株式会社むつ縫製
102 森菊株式会社
103 森保染色株式会社

ヤ
104 山甚物産株式会社
105 ユウワ商工株式会社
106 株式会社ユニウェル

ラ
107 有限会社リネット
108 リネンハウス株式会社

亜麻（リネン）の花　Photo by CBLFTA

日 本 麻 紡 績 協 会

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町 1-1-10
TEL： 03-3668-4641
FAX： 03-3668-4642
Email： jp-asabo@cb.wakwak.com
URL:　https://www.asabo.jp/

令和 7 年 5 月 14 日発行